

古典教材論

― 研究と教育をつなぐ ―

青木美咲希

本稿は、現代における古典教育の意義を問い直し、古典教育の発展に文学研究の成果を活かす必要があることを論じたものである。

戦後の古典教育には、典型概念による教育意義が論じられたが、国際化や情報化など変化の目まぐるしい現代においては、関係概念によった古典教育が必要になっていくと考えられる。現代の教育目的を考慮した、新しい古典教育意義論の構築が必要である。

教科書教材には、カノンの影響によった採録が続いており、採録作品の固定化が起こっている。各段階の学校において同じ教材が採録され続けているが、高等学校での発展した学習は見られない。教材は、文学研究の成果を活かした見直しが必要である。そのためにも、文学研究者と国語教育研究者は密に連携していかなければならない。

文学研究の成果を活かした教材提案として『竹取物語』と『宇治拾遺物語』を検討した。言語遊戯性という表現性を活かし、言語能力育成のための教材として試案を論じた。